

県内保育施設等における ヒヤリハット事例集



鳥取県
令和7年10月 改訂

目次

屋内

	ページ数
①食事に関する事例	3
②午睡中に関する事例	5
③フール・水遊び中に関する事例	5
④誤食に関する事例	5
⑤見落としに関する事例	7
⑥転倒に関する事例	7
⑦その他	9

屋外

①駐車場・送迎時に関する事例	12
②フール・水遊び中に関する事例	12
③遊具に関する事例	13
④見落としに関する事例	14
⑤園外活動中に関する事例	15
⑥転倒に関する事例	15
⑦その他	16

令和4年3月事例集作成

令和5年12月一部改訂

番号	事例	対策
----	----	----

①食事に関する事例

1	アレルギー用給食へアレルギー食材が混入した。	献立表（食材にいたるまで）の読み上げと複数人で確認することを徹底した。（届出保育施設・私立）
2	アレルギー対応の子どもに卵のメニューを提供してしまった。 給食後、他の職員が食事箋を確認し発覚した。	再度、アレルギー対応について確認するようにした。 アレルギー用の食事箋、用紙を改善した。（病児・病後保育施設・私立）
3	弁当持参の日、食中毒予防のため涼しい部屋に弁当を集めていたが、同じ名前の子が同じ柄の弁当袋だったため取り間違えて食べてしまった。	集めた弁当は職員で手渡しするようにした。（認定こども園・私立）
4	給食のデザートに皮付きリンゴを提供したところ、皮が喉に引っかかり咽せた。	果物を提供するとき、手で皮の剥けないものは、皮をむいて提供するようにした。（認定こども園・公立）
5	3歳児が、パンの日にパンを口いっぱいほおばったところ、喉に詰まらせ、窒息する恐れがあった。	子どもにすぐに声をかけ、パンを一口ずつぎって食べるように促した。また、子どもたちと「口いっぱいに食べ物をほおばるとどのような危険に繋がるのか」を話し合い、給食時の約束事（・パンはちぎって食べる・食べ物を飲み込んでから移動する等）を決めた。（認定こども園・私立）
6	汁物に入っていた餅を口いっぱいに頬張ろうとしていた。	具体的な咀嚼回数を伝え、よく噛んで食べる習慣作りを行った。（認定こども園・私立）
7	0歳児のアレルギー食で、ミルク提供からおやつ提供へ移行する際、アレルギー除去食用のバットにおやつを乗せずに配膳をした。受け渡しの際に保育士が気付いたが、誤食につながる恐れがあった。	前日及び当日のミーティングの時にアレルギー除去食のある園児の離乳食の内容について確認を徹底するようにした。前日に事前準備しておき、提供する際、アレルギーチェック表をよく確認するようにした。（保育所・公立）
8	アレルギー除去食がある時、給食を取りに行った職員が除去食があることの確認ができておらず、除去がある時に着けるエプロンを着用せず、普通のエプロンを着用して給食を取りに行っていた。調理員に指摘されて除去食があることに気づいた。	給食を取りに行く前に除去食があるかないかクラス内で声出し確認を行うようにした。マニュアルを守って手順を踏むようにした。（保育所・私立）
9	後期食と完了食が同じワゴンにのっていたためデザート（果物）の配膳を間違えそうになった。	別のワゴンにのせて運ぶ、プレートの色を変える、声出しを行い複数で確認するなど対応を取った。 後期食もアレルギー食と同じ対応で行うようにした。（アレルギーマニュアル参照）（認定こども園・私立）

番号	事例	対策
10	離乳食で提供されたおかゆの温度が高かったことを園児が泣き出したことで初めて気付いた。	必ず冷ましてから給食室から出すこと、アレルギー対応食も含め、食事に関することは必ず声に出して確認することを再確認した。食事の対応を、経験数の少ない職員やパート職員に任せきりにしないことも再度徹底するようにした。（保育所・公立）
11	完了食の汁と離乳食の汁の見分けがつかず、配膳前に確認することになった。	給食室にもお願いをし、完了食と離乳食をお盆に分けて乗せるようにした。（認定こども園・私立）
12	食事を終えたアレルギーのある子どもが、友だちの給食に手を伸ばそうとしていた。	食べ終わった子どもが遊ぶスペースに仕切りをするようにした。（保育所・公立）
13	保育士が少し離れた間に近くにいた友だちの食事に手を伸ばし食器をひっくり返していた。	アレルギーのある子どもと他の子どもとの間隔をあけて座るようにし、保育士はアレルギーのある子どもの食事が終わるまで側から離れないようにするようにした。（私立・保育所）
14	アレルギー食材を使用したおやつを提供したとき、おやつを食べ終わった後に手を洗ってない状態で除去食対応をしている子どもに触れようとした。傍にいた保育士が防いだため触れることはなかった。	アレルギーのある子どもの傍には職員がつくことを徹底しているが、他の子どもの行動もよく見ておくようにした。 アレルギー対応食であった時には必ず食後に手洗いを良く行うよう徹底するようにした。衣服についた汚れ、机、床掃除などの徹底を再確認した。（地域型保育事業所・私立）
15	アレルギー食対応の園児のクラスで、残飯を水道の所に置き忘れた。	片付け後は直ぐに職員室の決まったゴミ箱に入れた。（届出保育施設・私立）
16	当日の献立確認を保護者とするのを忘れていた。以前利用されていた時も未摂取だったので、もし気付かずに食べていたらアレルギーを起こしていた可能性があった。	個人ファイル表に未摂取食材を記載し、職員間で共有するようにした。当日の献立の確認を、保護者とメニューを一緒に見ながら確認するようにした。（病児・病後保育施設・私立）
17	職員室の薬箱に園児一名分の薬袋が見つかり、飲ませ忘れていたことに気付いた。	朝の薬チェックを必ず行い、各クラスに声掛けをするとともに、朝の薬チェックができない場合は昼食後の薬チェックを怠らないようにした。（認定こども園・私立）
18	土曜日保育時、アレルギーのある子どもの登園報告を給食室へ忘れていた。（担任は不在だった）	報告時、前日の担任からの引継ぎを含め、ダブルチェックを必ず行うようにした。（認定こども園・私立）
19	小麦アレルギーのある子どもが登園しているときは食品等の持ち込みを禁止しているが、他の子どもがパンを持ってきており保育室に持ち込んでいたことがあった。	園からのメール（マチコミ）にて再度周知、玄関に貼り紙を行った。 途中入園の家庭に説明した。 もしなにかが落ちている場合スタッフが回収と掃除を行った。（届出保育施設・私立）

番号	事例	対策
----	----	----

②午睡中に関する事例

1	預かり保育の午睡時、5分ほど左半身を下に横向きで寝ていたところ、肘が痛いと言出し泣き出した。受診したところ、肘が抜けていた。	全職員に周知するとともに、園児の手は引っ張りすぎないように注意喚起した。痛みが続く際は保護者へ連絡及び受診等について迅速に対応することを徹底するようにした。（幼稚園・私立）
2	園児が午睡のため布団に入った際、口から給食で提供したちくわを吐き出した。そのまま午睡すれば窒息の恐れがあった。	食事の際は、必ず飲み込んでいるかを確認するようにした。（認定こども園・公立）
3	午睡の時、眠っている1歳児の口の中に給食の残りが入っていた。	眠そうなときは食事を中断するようにした。 寝る前に口の中を確認するようにした。（保育所・私立）
4	午睡中に嘔吐していた。	午睡時間は、時間を決めて見回り確認をするとともに、午睡場所は遮光カーテンで閉め切らず、園児の顔が確認できる明るさにするようにした。（認定こども園・公立）
5	午睡中、園児がうつ伏せ寝になっていた。	10分おきに睡眠チェックをしているが、10分間の間も目を離さず、すぐに仰向けにする等の対応を行うようにした。（保育所・私立）
6	午睡の時、3歳児の子どもが布団の中でネジをかまて遊んでいた。室内に落ちていたということだった。	ネジのついている物は緩んでいないか定期的に確認するようにした。 落ちていた物はすぐに保育士に渡すように指導した。（保育所・私立）

③プール・水遊び中に関する事例

1	室内でブルーシートを敷いてタライを置き、水遊びをしているときに、濡れているところで滑って転倒しそうになった。	ブルーシートは滑りやすいので、濡れやすいところにはバスタオルを敷くようにしたり、こまめにふき取ったりするようにした。（地域型保育事業所・私立）
2	0歳児がたらいで水遊びをしている際、ふちに手をついてつかまり立ちをし、前のめりになり転倒しそうになったが、保育士が受け止めた。	転倒を想像し、たらいの周りにクッション性のあるマットを敷くなど環境を整えるようにした。（保育所・公立）

④誤食に関する事例

1	アレルギーのある子どもの誤食があった。	アレルギーのある子どもの給食やおやつがハッキリとわかるように、食器やトレイの色を替え、ネームプレートを付けた。何が何に変わったかをメモして知らせ、確認してから食べさせるようにした。（認定こども園・私立）
2	検食用に賞味期限の過ぎたおやつ（ジョア）を提供した。園児のおやつは問題なかったが、新しい物と古い物が混在していたので、誤食につながる恐れがあった。	在庫確認のやり方を見直し、混在しないようにした。期日確認を複数の職員で行うようにした。（保育所・公立）

番号	事例	対策
3	室内のサークルの木枠をかじって、かけらが口の中に入っていた。	サークルにカバーをかけ、かじっても木片が口に入らないようにした。（認定こども園・私立）
4	午睡後、口の中から午睡で使う畳の破片が出てきた。	畳をむしり取って食べたようなので、畳の劣化具合を確認した。午睡中に寝ていない園児も注意深く確認するようにした。（幼稚園・私立）
5	ままごと遊びの際、トマトやウインナーの形をした玩具を口の中に入れて嚥咽した。	玩具の安全性を確認し、年齢に合わせた玩具（サイズ・材質）の選定を行うとともに、口の中に入るサイズの玩具は取り除くようにした。（認定こども園・公立）
6	口からシールが見つかる園児がいた。飲み込んではいなく、園児が大きく口を開けた時に気づき、すぐに取り除いた。	保護者へ伝え、家庭でも気を付けてもらうとともに園でも誤飲につながるようなものが落ちていないか安全点検を行った。（地域型保育事業所・私立）
7	お絵かきをしていた1歳児が口にクレパスを入れたことを一人の保育士が気づき、「入れました！」と叫び、近くにいた保育士がすぐにクレパスを取り除いた。	お絵かきをする際は、必ず複数の保育士が傍につき、保育士同士が声を掛け合い、どちらかが子どもから目を離さないようにすることを話し合った。（地域型保育事業所・私立）
8	ハイハイで探索活動をしている時に、ミルクの哺乳瓶の名札タグが落ちていて、口に入れようとした。	毎回タグのゴムのゆるみがないか確認するようにした。職員間でも周知し、共通認識のもと対応することを心がけた。（認定こども園・私立）
9	給食の小鉢にラップが混入しており、提供前に保育士が見つけたが、子どもが誤飲する恐れがあった。	色の付いたラップへ変更した。栄養室のマニュアルを徹底するようにした。（地域型保育事業所・公立）
10	茹でた野菜をザルにあげた際、ザルの目にスポンジ片がついており、気付かなければ異物混入し給食を提供してしまうところだった。	調理前及び調理中に目視確認を丁寧に行うようにした。（保育所・私立）
11	ボトルに入れて遊んでいた際のビーズが手洗い場に落ちており、園児が手を洗っている際に拾った。そばに保育者がいた為、口に入れることなく園児から回収することができた。排水溝付近のビーズの回収が漏れていた。	手洗い場で作業を行った後や、園児が利用する際は何も落ちていないか事前に確認をするようにした。（保育所・私立）
12	ブロックで遊んでいた時に、持ち主不明のプレスレットのビーズが畳に散らばっており、園児が口にいれようとしていた。	園生活に必要な物を園児に持たせないようおたよりを通して保護者に再度お願いをするともに、受け入れの際に危険な物が衣服やカバンにないかを保育者が確認するようにした。（認定こども園・私立）
13	まだ離乳食に移行していない園児が、完了食の残飯が入っているちりとりを触ろうとしていた。	子どもの手に届かない隅の位置にちりとりを置き、今一度ちり通りの場所を職員間で共有し合った。また、保育者同士が連携を図りながら子どもの行動を把握し、危険予知を高めた。（認定こども園・私立）
14	寝かしつけの時、使用しているブランケットに付いている「クルミボタン」を園児が引っ張り、口の中に入れようとしていた。	園で使用するブランケット等はボタン等の装飾のない物にしてもらうよう保護者に依頼し、使用するときに確認するようにした。（地域型保育事業所・私立）
15	おやつの後、遊んでいた子どもが落ちている物を口に入れようとしていた。	食事やおやつ後はしっかりと掃除をするようにした。アレルギーのある子どももいるので気をつけるようにした。（病児・病後保育施設・私立）

番号	事例	対策
16	園児が口の中に紐を含んだまま帰宅していたと保護者から連絡があった。	口に入れる危険性のある玩具は子どもの近くに置かないようにするとともに、異年齢で遊ぶ場合は、仕切りで区切って遊ぶようにした。 (保育所・公立)

⑤見落としに関する事例

1	職員が玄関内側のカギを閉め、子どもと共に2階で弁当を食べながら降りた際に、遅れて下校した子どもが中に入れず、一人で暑い中待っていたことに気付いた。	出欠の確認を怠らないようにし、連絡が無く下校して来ない場合は、必ず学校・保護者に連絡を取るとともに、確認が取れるまでは、必ず1階に職員が残るようにした。(放課後児童クラブ・公立)
2	勝手に玄関から出て、子どもだけで帰ってしまった。	迎えの時間までは、子どもだけで出ないことを再度確認した。(放課後児童クラブ・公立)
3	1歳児保育室の柵が開いていたため、1歳児1名が誰もいない3歳児クラスの保育室に行っていた。	室内での保育中であっても、人数確認をするようにした。扉(柵)がきちんと閉まっているか確認するようにした。(認定こども園・公立)
4	保育室の物入れの柵を開けて探し物をしていた際に、目を離れたときに園児がハイハイで柵の中に入ってしまった。	園児が側にいる時は、柵は開けないようにした。 要所要所で人数確認をするようにした。 危険予測を徹底し、保育者間で声をかけ合うようにした。(認定こども園・私立)
5	沐浴室の扉が開いていたため園児が一人で入っており、気づかれずに扉を閉められていた。	子どもの動きに合わせて、速やかに決められた配置につくようにした。また職員同士、声を掛け合いながら臨機応変に対応するようにした。全ての戸は、開けっぱなしにせず、その都度ロックをするようにした。沐浴室と職員ロッカーとの間に柵をするようにした。(認定こども園・私立)
6	登園記録簿上で、出席した子どもと欠席した子どもの記入が入れ違っていた。	職員は、慌てず確実に記載することを徹底するとともに、出欠集計前に各クラス担任と出欠確認を行い、記入ミス等での出欠の見落としを防ぐよう徹底するようにした。(保育所・公立)
7	保護者から休む連絡もなく、朝の人数確認の際も園児の姿が確認されていなかったが、保育が始まってから他の園児への対応に追われていて保護者への確認を行っていなかった。	朝の人数確認の時点で連絡もなく登園していない園児の保護者への連絡を9時までにやるよう徹底するようにした。(届出保育施設・私立)
8	給食運搬用のエレベーターのドアを閉め忘れ、中に園児が入る恐れがあった。	エレベーター使用時はチェックを忘れないようにした。(認定こども園・私立)
9	保育室の移動の際に、一人で玄関フロアに出てしまった園児に30分程度誰も気付かず、迎えに来た他の保護者と別の職員が気付いた。	保育室を移動する際には、複数の保育教諭が園児の人数点呼を行うよう徹底するようにした。(認定こども園・私立)
10	玄関の鍵が子どもの手の届く場所にあり、子どもが開けて外に出ようとしていた。	鍵を子どもの手の届かない場所に増設した。(地域型保育事業所・私立)

⑥転倒に関する事例

1	足元がふらついて転んだところ、家具の端にぶつかって青あざになった。	万が一ぶつかってもけがにつながらないように、クッション材を施した。(保育所・公立)
---	-----------------------------------	---

番号	事例	対策
2	トイレの手洗い場で手を洗った際、水が床にこぼれており、滑って転んだ。	手を洗った後は、すぐにハンカチで拭くことを指導した。また、手洗い場の床には滑り止めの付いたマットを敷くようにした。（認定こども園・公立）
3	おやつを食べた後の短時間にホールに遊びに行く。先に1クラスの子どもたちが遊んでおり、合流して遊んだ時に走っていた子どもとぶつかった。	ホールで遊ぶ際のルールを決め、子どもに周知した。担任間でもしっかり共有することとした。子どもの人数に合った遊び方の再検討を行った。ヒヤリハット事案として職員に周知した。（認定こども園・私立）
4	1歳児が子どもだけで階段を登っていた。手すりを一瞬離した際にバランスを崩し、1段、階段から落ちてしまった。その際に段差でおでこを打った。	階段の登り降りの際は子どもが単独で行動しないように保育者間で声かけを行い、安全に誘導できるように配慮するようにした。（認定こども園・私立）
5	遊戯室で友だちと鬼ごっこをしていて、ピアノの側に立っていた時に、逃げてきた友達がぶつかってきて、バランスを崩し、ピアノにぶつかった。	遊戯室で鬼ごっこをする時に走ってもいいエリアを確認してから遊ぶようにした。（幼稚園・私立）
6	2歳児男児がトイレに行き、男の子用便器を使用していた。流した後、水流を見ようとしたところバランスを崩し、便器に眉間を打った。子どものはいていたスリッパは、大きいサイズのものだった。	年齢に合ったサイズのスリッパを履けるように配慮した。必要以上に顔を近づけないことを子どもに知らせた。スリッパの位置の表示ををわかりやすいように作り直し、子どもがスムーズにスリッパを履いたり脱いだりしやすいようにした。（保育所・公立）
7	廊下の手洗い場に移動する際、上靴を履かず、靴下のまま小走りし、転倒した。 クラブは危険箇所と認識し、支援員を配置していたが、防ぐことができなかった。	廊下は歩いて移動することを指導、上靴の着用確認、支援員の配置場所、支援の方法の再検討を行った。（放課後児童クラブ・公立）
8	階段の手すりにぶらさがり、転落をした。	手すりに転落防止用のパネルをつけた。（放課後児童クラブ・公立）
9	廊下を走る子どもの姿があり衝突のおそれがあった。	・年長児の手作りのポスターを貼った。（保育所・私立） ・床に線と矢印を入れ、右側通行で動くようにした。（届出保育施設・私立） ・お互いが見えないコーナーの床には、ストップマークをつけ子どもたちに周知した。（保育所・公立）
10	椅子の背もたれの隙間に足を入れ込んで座り、そのまま転倒のおそれがあった。	椅子の隙間を覆って足が入らないようにした。（保育所・私立）
11	上靴のかかとを踏み、足が半分出た状態で歩いていた。保育者が途中で気付き声を掛けたことで転倒は防ぐことが出来た。	日頃より、上靴のかかとは踏まない事を伝えるようにした。また、転倒の危険など怪我に繋がることを伝えていくようにした。（保育所・私立）
12	2階の保育室から階段で降りるとき、2歳園児が手すりから手を離し、前にいた園児を追い越そうとしていた。保育者が声をかけると手すりを持ち直し、元の場所に戻ったが、バランスを崩して本児や他園児が落ちて怪我をする可能性があった。	階段の途中で他児を追い越さないように話をした。追い越そうとする子どもの近くに保育者がつくようにした。降りる順番を決めるようにした。（保育所・私立）

番号	事例	対策
13	ござがほつれており、そこに足を入れていて、ひっかかり転倒する危険があった。	ほつれた箇所をテープで覆った。数く時、片づける時に点検するようにした。（認定こども園・私立）
14	トイレで紙パンツから布パンツに履き替えている際、バランスを崩して転倒しそうになった。	トイレに座って着脱できる台を用意した。着脱する際は保育者が必ず側で見守るようにした。（認定こども園・私立）
15	園児が保育室と廊下の間のベビーゲートにもたれかかっていた。ゲートのカギ部分をさわっていたところゲートが開き、転びそうになった。どうやったら扉が開くかを知っていた様子であった。	園児の行動に「ここまではしないだろう」と決めつけた予想はせず、必ず安全性を確認することを徹底した。（地域型保育事業所・私立）
16	保育室内のパーティションの隙間に足を入れ、バランスを崩してこけそうになった。	パーティションの間に足を入れることがないように、壁に設置するような玩具をつけた。（地域型保育事業所・私立）

⑦その他

1	保育室の空気清浄機に箱イスを踏み台にして登っていた所、空気清浄機が倒れて子どもの足に乗った。	空気清浄機を、倒れないようにしてある柵に紐で繋げて（結んで）固定し転倒防止した。（届出保育施設・私立）
2	カーテンと窓の間に入り、窓枠に額をぶつけ、赤くなった。	カーテンはクリップで留めて、本児の目が隠れる高さにあったため、高い位置に停め直した。（認定こども園・私立）
3	木製の備え付けの棚に背で持たれながら移動した際、棚のふちのささくれに衣服が引っ掛かり、木の小さな破片が背中中に刺さった。	木の棚に養生テープを貼った。 養生テープがはがれないように定期的に点検するようにした。（保育所・公立）
4	棚の隙間に入って遊んでいた1歳児の園児を、棚の隙間から出そうとした際、職員が腕を引っ張ってしまい、肘内障の症状が見られた。	棚に隙間ができないようふさいだ。 園児を移動させる際には、脇を抱えるなど、腕を引っ張らないようにした。（認定こども園・私立）
5	寝ている子の顔を爪などで傷つけた。	0歳児ベッドにネット素材でガードし、他園児が手を入れないようにした。（保育所・私立）
6	園児がコンセントにピンセットを入れてしまった。	短時間でもコンセントキャップを付け直すこと、ピンセットを使用する遊びは机上のみで行うこと、コンセントの危険性の指導を実施した。（認定こども園・私立）
7	年度が変わり、初めて保育室天井に設置してある扇風機を使用したところ、ガタガタと音が鳴り、扇風機のカバーが床に落ちた。その下に園児はいなく、怪我は無かった。	掃除をした際、しっかりはまっているのか十分確認をするようにした。また、園児がいない時に試運転を必ずするようにした。（保育所・私立）

番号	事例	対策
8	1歳児が0歳児と遊ぼうとした。しかし、1歳児が覆いかぶさってしまい0歳児が身動きが取れなくなった。	保育者が間に入り、思いを代弁して関わる中で一緒に触れたりするようにした。（届出保育施設・私立）
9	エアコンのカバーが外れ、支援員が周囲を確認後、ジャンプして取り付けた。支援員が着地する際に、転がって来た子どもの左耳に支援員の左足が接触した。	高い所に設置している物が外れた場合、子どもが近づかないように支援員を配置し、脚立等を使用して作業を行うようにした。（放課後児童クラブ・公立）
10	子どもが手洗い場の掃除を手伝ってくれていた時、漂白剤を使ってしまった。	手洗い掃除等を児童とする時は、危険が伴わないかを考え、必ず水だけを使用するようにした。（放課後児童クラブ・私立）
11	体育館遊びの際、はだして遊んでいる子どもがけがをした。	脱げにくい上靴の準備を保護者に伝え、上靴を履くよう指導した。（放課後児童クラブ・公立）
12	玄関窓の下にあるサンプルケースにおやつを入れる際、サンプルケース上の窓枠にジョア（乳酸飲料）を置き、サンプルケースに入れることを忘れ、窓枠に置いたままになった。	献立表と合わせて、サンプルケースの中身を確認するようにした。一時置きしないように、バットを使用するようにした。（保育所・公立）
13	はだし保育の時期になり、園児は裸足だが職員は上靴を履いており、園児の足を踏みそうになった。	気づいたら園児が後ろにいたりするので行動観察も必要だが、職員が裸足になることで改善された。（認定こども園・私立）
14	4歳児が手指消毒液（アルコール）をなめそうになった。	保育士の監視下で消毒を行うようにした。（保育所・公立）
15	トイレの消毒液が鍵のかかっていない棚の上に置かれていた。	リスクを確認し、鍵のかかる大人用トイレの棚にしまうよう職員間に改めて周知した。（保育所・公立）
16	3歳児が首に下げた水筒のひもをねじって遊び、首がしまりそうになった。	水筒をかけるときはたすきがけにかけているか確認するようにした。（保育所・公立）
17	1歳児クラスでストーブの柵に登ろうとする子がいた。	柵に段ボールをかぶせて遊べるボードコーナーとした。（夏場のみ）（保育所・私立）
18	子どもが保育室入口の戸で指を挟みかけた。	・戸にスポンジガードを付けた。（保育所・私立） ・ドアの隙間カバーを設置し指詰めを防止した。（保育所・私立） ・ドアを常時開けておくか、ドアと柱の間にクッションを付けてドアが完全には閉まらないようにした。（放課後児童クラブ・公立） ・扉を開けているときは、ガムテープを貼って動かないようにした。（届出保育施設・私立） ・片方だけを開閉することにし、出入り口の表示をつけ、園児にも知らせた。（保育所・公立）
19	給食や午睡時など活動の切り替えの時間帯に、子ども同士の距離が近く、噛みつきそうになった。	子どもの様子にしっかりと目を配りながらお互いが声を掛け合って役割分担を確認した。（保育所・私立）
20	紐通しで使用した紐を園児が首にかけて遊んでいた。	園児が安全に片付けるまで見守るようにした。（保育所・私立）
21	園外散歩の為、ワゴン車に園児を乗せている時、ワゴン車のロックが掛かっていないことに気付いた。すぐにロックを掛け、怪我は無かった。	事前にワゴン車の点検を十分に行い、安全に乗せられるようにした。（保育所・私立）

番号	事例	対策
22	園児が使用する洗浄済みのコップに牛乳を入れる時、コップにヒビが入っていることに気付いた。気づかないまま提供していたら、破片が入っていたかもしれないと思うとヒヤリとした。	安定した場所にコップを置き、提供するようにした。定期的に食器の点検を行い安全性を確認するようにした。（保育所・私立）
23	園児がカバンかけに1方向でカバンを掛けており、移動の際に一斉にカバンを取りに行き、カバンかけが倒れそうだった。	カバンは前後に掛けるよう伝え、一斉に取りにいかないよう徹底した。（認定こども園・公立）
24	お昼寝シーツに付いているずれ防止ゴムが、寝ている園児の顔の付近にあり、首がゴムの輪に入りそうになった。	布団を敷く際のゴムの確認及び寝入っている園児の姿や布団の確認を怠らないようにした。（認定こども園・公立）
25	外を通っている人に手を振ろうと椅子の上に立ち、網戸を開けて体を乗り出そうとしていた。	窓を開ける場所を子どもの手が届かない場所にした。（届出保育施設・私立）
26	室内のサークルを子どもが押して倒れそうになった。	転倒防止の脚をつけていたが、何人もの子どもが一度に押すと倒れる危険があるため、端を壁に固定したり、職員がサークルの傍に付いたりして、子ども達が押さないよう見守るようにした。（認定こども園・私立）
27	ごちそう作りを楽しむ中で、スプーンを使って食べる真似をしていた園児が、スプーンを口にくわえたまま走りだそうとしており、のどや口等に刺さる恐れがあった。	スプーンを持っているときなどに口に入れることがないように注視するようにした。走らないよう声かけをするようにした。（地域型保育事業所・公立）
28	玄関では牛乳パックで作った台に座り靴を履くが、そこからジャンプしようとしたり、立とうとしたりする子どもがいた。	幅を広くし高さを低くし、重さのあるものに作り変え、下には滑り止めシートを敷いて動きにくくした。（届出保育施設・私立）
29	保護者から預かった冷蔵保存すべき投薬する薬を職員が常温で保管しようとしていたところ、別の職員が気付いた。	保護者から薬を預かる時に注意事項を確認し合うことを徹底した。（届出保育施設・私立）
30	服薬時間を間違えて飲ませようとしていた。	服薬時間の確認は必ず2人で行うようにした。また聞き取りをした職員は引継ぎ時に時間等細かく伝えるようにした。（病児・病後保育施設・私立）
31	展示物などを壁面に貼る際に使っている画鋲が落ちていて子どもが踏んでしまいそうになった。	床に落ちた時に針が上を向かない画鋲に変更した。 ガムテープや両面テープが使用できる箇所は変更した。（放課後児童クラブ・公立）
32	ハサミを持ちチョキチョキ切る真似をしながら歩く子どもがいた。	注意するとともに、張り紙をして全体に伝え、片づける場所にも大きく名前を書いた。（放課後児童クラブ・公立）
33	子どもが押し入れに物をしまう際、押し入れの中で遊んでいる子どもがいるのに気付かず、閉めて足を挟みかけた。	子どもには押し入れの前まで手伝ってもらい、扉は支援員のみしか開閉しないルールを設定した。（放課後児童クラブ・私立）

番号	事例	対策
----	----	----

① 駐車場・送迎時に関する事例

1	送迎時、園舎から駐車場までの道路で保護者から手を放して走ったり、道路に飛び出そうとしたりする子どもがいた。	・保護者に定期的に園だよりやマチコミなどで、安全な送迎について知らせたり、玄関に注意喚起の貼紙をしたりしている。また、子ども達にも安全指導や集会などを通して一人で走っていかないよう繰り返し話をするようにした。 実際にそういう場面に遭遇した場合は、どの職員も子どもや保護者に声掛けを行うよう職員間で共通理解をするともに、担任にも伝えてクラスでも個別に指導を行うようにした。（認定こども園・私立） ・保護者と子どもにすぐに声をかけ、降園時は、保護者と子どもが手を繋いで車まで歩くように伝えた。全保護者に向けても、アプリで駐車場での事故防止について注意喚起をした。（認定こども園・私立）
2	降園時に玄関で保護者と話をしている時に、子どもが玄関から出ようとしていた。	・保護者との話があるときは、前もって職員間で連絡を取り合い共通理解をし、話が終わるまでは担当の保育士が保育をすることとした。子どもを保護者に渡してからは話をしないことを徹底した。（保育所・公立） ・送迎時の保護者への伝達等の際は、話が終わってから子どもを渡したり、渡した後に保護者から話があった場合も子どもから目を離さないようにしたりして、子どもが一人で園外に出ることがないようにする。警備の先生にも子どもが一人で門外に出ることがないように、特に送迎時は注意してもらうようにした。（認定こども園・私立）
3	送迎車が園の駐車場にバックしようとしている際、シートベルトを外そうとしていた。	送迎車が完全に停車するまでシートベルトを外さないよう、停車前に呼びかけておくようにした。（認定こども園・私立）
4	降園時、園の玄関から園児が保護者の手を振り払い、駐車場へ飛び出してしまい、他の保護者の車と接触しそうになった。	見送る保育士に対する周辺の状況把握の徹底と、玄関から車まで保護者と手をつなぎ、駐車場で園児が単独で歩かないよう保護者に注意喚起を行った。（届出保育施設・私立）
5	降園時、門扉から出るのに保護者と一緒に歩かず、先走ってしまう園児がいた。	安易には開かない門扉にした。門扉から駐車場までを照らす人感センサーに交換した。（保育所・公立）
6	登園時、母親を追いかけて玄関から出ようとした。	人数の把握、子どもの居場所の確認などの徹底、必ず玄関に職員が立つこととした。（保育所・私立）
7	降園時間帯に、数人の小学生がプレイボードに乗り園舎前駐車スペースであそび始めた。	車の出入りがあるので危険なことを伝え、退去してもらった。（地域型保育事業・私立）

② プール・水遊び中に関する事例

1	プールで浮き輪を使用して遊んでいた園児が、バランスを崩し、頭が水の中に浸かり、手足をバタつかせていた。	体格に合った大きさの浮き輪を使用しているか確認するとともに、浮き輪の安全な使い方を知らせるようにした。（保育所・公立）
2	ビニールプールで水遊びをした後、片付けをしている時にマットで足を滑らせ転倒した。	プール周辺では走らないことを指導した。（放課後児童クラブ・公立）
3	プールからあがった園児が、濡れた体でプールサイドを走り、滑って転びそうになった。	プールあそびに高ぶる気持ちを落ち着かせる声掛けをしたり、プールあそびでの約束事の絵やイラストをわかりやすいところに掲示したりし、注意喚起していった。（保育所・私立）

番号	事例	対策
4	簡易プールで遊ぶ際、1歳児が自分で出入りをしようとし、滑ってバランスを崩しプールの縁に頬を打った。	プールの出入りは必ず保育者が手を添えるようにした。(認定こども園・公立)
5	プールの監視職員が揃っていない状態で入水した。	監視の職員を確認し声をかけ、監視職員が揃ってから子どもと屋外(プール)に出るようにした。(保育所・公立)
6	プールの中で遊んでいた園児が、近くで泳いでいた他の園児の上に乗りかかってしまった。	プールの中が密にならないように人数や時間を決めるとともに、監視を徹底し、直ぐに気付けるように職員間で連携を図るようにした。(保育所・私立)
7	開いていた保育室の戸から戸外のプールまで出て行き、プールのフェンスに上がろうとしていた。	鍵をかけることを徹底した。(保育所・公立)
8	プール中に園児2名が玩具を取ろうとして保育者に何も言わずにプールから出ようとしたり、プールの淵に座ろうとしたりする姿があった。声を掛けると止めたため何もなかったが、転倒して怪我をする可能性があった。	プール遊びをする前に約束事を決めて話をし、危険がないようにした。(保育所・私立)
9	3歳児がプールで嬉しくて気持ちが高ぶり、遊び方が激しくなり、おぼれそうになった。	危ない様子が見られた際には、一度プールから上がり簡単に約束をするようにした。(保育所・公立)
10	職員が安全確認のためプールサイドを歩こうとすると、日差しでプールサイドのスノコが熱くなっており、子どもが歩くと足の裏をやけどする危険があった。	スノコに水を撒き、プールサイドを冷やしてから、歩くようにした。(認定こども園・私立)
11	3歳児がプールに入水中、プールのふちに手を置き、腹から登ろうとする。プールサイドに頭から転落したり、体勢を崩してプールに溺れたりする危険があった。	対象児にすぐに声をかけ、転落や溺れる危険があることを知らせた。クラスの中で、プールでの安全な遊び方を子どもたちと一緒に話し合い、プール前後や入水中の約束事を子どもたちと一緒に確認した。(認定こども園・私立)
12	プール活動中に表情がなくなり、目をつむっていたため「大丈夫？」と声を掛けると頷き、活動の流れに乗っていたが、プール後に39.5度の熱があった。	朝の体温は平熱であり、保護者が記入するカードに○のチェックがあった場合も、気温が上昇して行く中、着替える前に一人一人の体調、表情を確認したうえでプールに入らせるようにした。(保育所・公立)
13	プールへのスロープに敷いていた人工芝がずれ、コンクリートがむき出しになっていた。危険だと指導を受けた際、すぐに行動せず、プール遊びを行った。園児が滑って転んでいたら、頭をコンクリートに打ち付ける可能性があった。	保育者が危険に対して意識を高く持ち、指導を受けたらすぐに行動するようにした。(届出保育施設・公立)

③遊具に関する事例

1	滑り台を逆から登ろうとして、通常で滑ってきた園児とぶつかる。	各クラスで、園児に固定遊具の使い方を再度周知した。(認定こども園・公立)
2	ブランコに乗っている時、不意に両手を離し後方に落ちる。	不意に手を放すことがあるのでしっかり握るよう声をかけるようにした。そばについておくようにした。(認定こども園・公立)
3	園庭の滑り台を腹這いで滑り降り、顔面から着地してしまった。	危険な遊び方をしている時には注意をするようにした。(幼稚園・私立)

番号	事例	対策
4	1歳児が滑り台を登っていると、3歳児が1歳児を追い越すように階段途中から割り込んで登ろうとし、1歳児が後ろ向きに落ちそうになった。保育者が近くにいたため、怪我はなかった。	楽しい遊びこそ順番を守ることや落ち着いて遊ぶことを理解してくれるように伝えた。（保育所・私立）
5	1歳児がいつの間にか乗ってはいけない大きいすべり台に乗っていた。	保育士の役割分担を明確にし、声をかけあった。全体を見る保育士をつくった。他クラスの職員と連携した。（保育所・私立）
6	1歳児が鉄棒の下を通過した際、身長が鉄棒の高さぎりぎりで衝突しそうになった。	使用しない時は、鉄棒にスポンジをまいたり三角コーンを置くなどの対策を取った。（保育所・公立）
7	ブランコの周りに子どもが近づき、ぶつかりそうになった。	ブランコに乗っている子がいる時には後ろを通らない、近づかないことを徹底した。（放課後児童クラブ・公立）

④見落としに関する事例

1	園庭遊びから保育室に戻る際、1人足りないことに気付き、園庭に探しに行くと、園庭の隅の木の所にいた。	人数確認及び最後に入る職員は園庭に園児が取り残されていないか全体を確認することを徹底した。（保育所・公立）
2	園庭で遊んでいるときに、園庭端にある倉庫の裏側に園児が入っていった。保育者が倉庫の裏に行ったことにすぐ気が付き出てくるように声をかけ、無事に出てきた。	倉庫の裏に入らないよう、三角コーンを置くようにした。また、本児にも、入らないようにしっかりと話をした。（保育所・公立）
3	戸外遊び中、砂場付近から子どもの声が聞こえるものの姿が見えないため確認すると、園児が用具収納庫の裏側の隙間に入って遊んでいた。	出入りができないようネットで塞ぐとともに、他にも類似の死角になり得る箇所がないか確認した。（保育所・公立）
4	園庭で集団遊びをしていた際、気持ちが崩れてしまい、座って気持ちの切り替えをしていたが、自由遊びになると担任の気が付かないうちに保育室に入ってしまった。	遊びや場面が切り替わるときは、必ず人数確認を行うことを徹底した。支援の必要な園児の行動を予測し、関わるようにしていくようにした。トイレ対応等、園児の出入りの行動を把握できるような職員配置をしていくようにした。（保育所・公立）
5	園庭から保育室に帰る時、内玄関で遊んでいる園児を把握しておらず、取り残していた。	活動時、移動時の人員点呼の徹底を行うとともに、全体を把握できるような職員連携について確認した。（認定こども園・公立）
6	門扉の開閉を子どもが行った。	門扉上部(子供の手の届かない高さ)に掛ひもをつけるなど、2重に施錠対策を取った。（保育所・私立）
7	園児が投げ合っていた帽子が園庭のフェンスの扉を超えて外へ出てしまい、それを取ろうと扉の下隙間をくぐって園庭の外へ出ていた。	扉の下隙間に、ワイヤーネットを取り付けた。（保育所・私立）
8	園庭遊びに出た時に、正門と勝手口ドアの両方が開いたままになっており、園児が駐車場に出ようとしていた。	保護者に送迎時には必ず閉めてもらうよう注意喚起を行うとともに、保育者で徹底して確認するようにした。（保育所・私立）
9	園庭遊びからトイレに行った3歳児がそのまま玄関のカギを開け門扉付近まで行っていた。	玄関引き戸上部にもカギを設置するとともに園児たちにも危険性や約束事について話をし、園児が園舎内に戻る際には必ず中にいる職員に声をかけること、門扉は必ず施錠することとした。（認定こども園・私立）
10	保護者の送迎用出入り口から黙って出てしまう園児があった。	ベビーゲートと扉で2重にし、安全な環境を整備した。（認定こども園・私立）
11	園庭駐車場に停めてあるバスの扉が開いており、園庭で遊んでいた園児がバスの中に入っていた。	バス停車後は、必ず扉を閉めるよう徹底した。（認定こども園・私立）

番号	事例	対策
12	普段は降園バスを利用している年中園児について、習い事のためこの日はバスを利用しない予定であったにもかかわらず、担当者がバス利用園児名簿を消し忘れ、当該園児をバスに乗せてしまった。保護者が園に迎えに来られて気付いた。	登降園や保護者からの連絡事項などのチェックができるアプリで確認した情報は、すぐに名簿に記載するようにした。また、降園時にも再度アプリの確認をするようにした。（認定こども園・私立）
13	玄関自動ドアを開けるボタンが子どもの手が届く位置にあり、勝手に外に出る子どもがいた。	ボタンを子どもの手が届かない位置に付け替え、保護者と一緒に玄関を出ることを徹底した。（届出保育施設・私立）
14	裏庭で遊んでいるときに、子どもが表の方まで1人で行ったことがあった。	網で簡易的な柵を設置した。（届出保育施設・私立）
15	前庭へ出掛ける時、間違えて道路に向かって走り出した子どもがいた。	引率の職員で連携し、玄関スロープから前庭へ行くところで誘導するように保育者を必ず1名配置した。（届出保育施設・私立）
16	下校時の送迎において、名簿の確認ミスにより、1名の児童を乗せ忘れる事案が発生した。すぐに小学校より連絡を受け、速やかに現地へ向かい、当該児童のみ遅れてお迎えを行った。	送迎前に、当日送迎対象となる児童（氏名・人数）を職員同士で必ず相互確認するようにした。 送迎表（確認表）を使用し、点呼およびチェック欄への記入を確実に行うようにした。（放課後児童クラブ・公立）

⑤園外活動中に関する事例

1	登園渋りにより遅れてきた園児が、町内施設に出かけていた時、施設より飛び出した。	登園を渋る場合は、園で落ち着いて過ごせるよう対応する。園外保育時は、職員配置を増やし、想定外の園児の動きに対応出来るようにした。（認定こども園・公立）
2	お散歩中、周囲が気になり、友達とつないだ手を急に離した。	子どもに繰り返し手を離したら危険だということを伝えていく。 子どもの日ごろの姿を把握し、保育士と手をつなぐ、すぐ対応できる場所に保育士がつくようにするなど対応を職員間で共有するようにした。（地域型保育事業・私立）
3	園外保育の際、公園の滑り台が濡れていたことに気付かず、園児が滑り下りた際に溜まっていた水で勢いが付き、転がるように着地した。	遊具の状態把握、安全点検を行った上で、遊ばせるようにした。（保育所・公立）
4	広場（公園）で遊んでいる際、新入児が一人で道路に出ようとしていた。気付いて止めたため、怪我はなかった。	職員間で声を掛け合い、子供を1人にしたり目を離したりしないようにした。（保育所・私立）
5	食育活動中、野菜の収穫をする際に収穫した野菜を口に運んだり土をなめたりしようとする子どもがいた。	未満児の取り組みだったが複数の保育者で声を掛け合い見守りながら、かつ、一人一人順番に収穫するようにした。また、駐車場から野菜は手の届く位置にある。送迎の際に、保護者にもミニトマトなど誤飲につながるものもあるので注意の呼びかけもした。（保育所・私立）

⑥転倒に関する事例

1	園庭の土山で園児がズボンのポケットに手を入れたまま上り下りしており転倒した。手をつくことができず、顔を打撲した。	ポケットに手を入れて遊ぶことの危険性を伝え、ポケットに手を入れて遊ばないことを園児と確認した。（認定こども園・公立）
2	1歳児がテラスから園庭に出る時、段差があり、その下にグレーチングがある。急いで出ようとし転落しそうになった。	テラスに下りる際は子どもより先に待機し、1人ずつ下りて出るようにした。また、グレーチングにはスポンジマットを敷くようにした。（保育所・公立）
3	園庭のフェンスに、タイヤが立てかけてあった。園児が足をかけてのぼり、転落する恐れがあった。	フェンス近くに物を置かない。また、おいていないかを、必ずチェックするようにした。園児にも、危険であることを知らせた。（保育所・私立）
4	積雪に喜んだ園児が登園時に走ってしまい、転倒しかけた。	玄関や階段などは滑りやすい為、マット敷いたりこまめに雪かきを行い危険防止に努めた。また天気予報を見て、保護者への注意喚起も行った。（認定こども園・私立）

番号	事例	対策
5	テラスに設置している柵に園児が寄りかかった為ところ、柵が破損して転倒しそうになった。	毎朝の安全点検で破損箇所がないか確認した。また、柵が柱の死角になっていた為、保育者間で連携を図り子どもの行動範囲の把握に努めた。（認定こども園・私立）
6	園庭で木登りをして遊んでいた際に、木の枝が折れて転落しそうになった。	定期的な点検の実施及び腐食部分の伐採を行った。（幼稚園・私立）
7	砂利の山を登り遊んでいた際、バランスを崩し後ろに倒れそうになったり、坂道を勢いよく降りようとし転倒したりする恐れがあった。	危険性のある箇所を把握し、保育士が立ち見守っていくようにした。（地域型保育事業・公立）
8	園外保育からの帰宅時、散歩車に乗っていた園児が早くおたくて散歩車の手すりに足を上げていた。身を乗り出す前に職員が気づいたが、散歩車から転落する恐れがあった。	早く遊びたい気持ちを受け止めながらも保育者に降ろしてもらうまでは待つことを繰り返し伝えていくようにした。 散歩車に園児が乗っていると時には、必ず見ていること、目を離さないことを再度職員間で確認するようにした。（地域型保育事業・私立）

⑦その他

1	児童が遊庭以外でボールを使用していたところ、道路へ転がったボールを追いかけて、道路に飛び出した。	交通事故（大けが・命の危険）になること、ボールは必ず手に持って遊庭に移動し、遊庭でボールを使用することを繰り返し指導するようにした。（児童館・公立）
2	園前の横断歩道を子どもだけで渡っていた。	交通安全指導として園児全体に登降園はお家の人と手をつなぐことをルールとし、啓発文章を玄関に掲示した。（認定こども園・公立）
3	蜂の巣を発見した。	・駆除し、職員で建物まわりの総点検を行った。（保育所・公立） ・殺虫剤で駆除した。（保育所・公立） ・建物内に蜂が入らないように入口の開閉の注意をして、扉に張り紙をした。（放課後児童クラブ・公立）
4	蜂を見つけた園児が、足で踏んで撃退しようとしたところ、手をさされた。	蜂がいたら近づかず、職員に報告するよう指導した。 蜂が集まってくるシロツメクサを刈った。（認定こども園・私立）
5	プランターの土をひっくり返し、虫探しをしていた子どもたちがガラスの破片を見つけた。	日頃から、職員が園庭周りのプランターの手入れや草取りなどの時に、点検・除去をした。 遊ぶ前には石拾いやゴミ拾いをするようにした。（保育所・公立）
6	コンクリートの塀に手をついて登れるようになっていた。	土が風等により地面に高さが出てしまったため、土を削り高さを調整した。（保育所・公立）
7	砂場や芝生に"ハネカクシ"という刺されると火傷のような症状になる害虫が発生した。	園児が園庭で外遊びを始める前に発見されたため、外遊びを禁止し、害虫駆除を専門業者に依頼して被害を未然に防いだ。（保育所・私立）
8	園庭で三輪車と走っている子がぶつかりそうになった。	遊びの場を分けたり、園庭に出ている人数によっては三輪車を使わないようにするなど三輪車で遊ぶ子とその他の遊びをする子の動線が交わらないようにした。（認定こども園・私立）
9	子どもが裸足でテラスに出ようとしたが、保育者がテラスが高温になっていることに気づき、火傷等の事故を未然に防いだ。	夏場は気温が上昇し、テラスや地面、手すり等が熱くなりやすい為、事前に気温や湿度、周辺状況等を確認してから活動するようにした。（認定こども園・私立）
10	運動会競技中に園庭に落ちた釘を発見した。	ロープに釘をつけ、園庭に打ち、競技の目印として利用していたが、ロープ回収の際に釘だけ落ち、未回収だったと思われる。今年の運動会では、釘の使用をしないこととした。（幼稚園・私立）
11	散歩中、屋根から雪が滑り、園児の近くに落ちた。	落雪の恐れがある場所には近づかないようにした。落雪の可能性を考慮するようにした。（地域型保育事業・公立）
12	雪により施設周りの用水路と道路の境界が曖昧になっていたため足を踏み外し落下する恐れがあった。	利用者へ声掛けと目視で境界が確認できるよう除雪を行った。（児童館・公立）